

第 1 回京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会 議事録

《日時》

平成26年6月10日（火）午後3時～午後5時

《場所》

キャンパスプラザ京都 2階 第1会議室

《出席者》

別紙一覧表参照

《議事録》

1. 開会

－省略－

2. 京都市長あいさつ

◆門川京都市長

皆様、こんにちは。各界の素晴らしいリーダーの方々にお集まりいただき、下京区西部エリア活性化の政策について御提言いただこうと、この委員会を立ち上げた。お忙しい中お集まりいただき、改めて御礼申し上げる。

この下京区西部エリア（概ね南北は五条通～ＪＲ京都線、東西は烏丸通～西大路通に囲まれたエリア）の面積は約 350ha であるが、周辺の東寺や壬生寺あたりも含む形で対象範囲を広げ、「京都駅西部エリア」と捉えると、約 810ha の広さがある。ここはかつての平安京の南部地域にあたり、朱雀大路が通り、東西の市など様々な都市機能が集積するエリアであった。その後、中世から近代、更には現代にかけ、東西の本願寺が、日本で最初の中央市場が、イノベーションの拠点となるリサーチパークが、この地にできてきた。また、明治時代、現在の梅小路付近に設置された駅が、京都で最初の鉄道駅であったとも言われている。

このように京都の歴史にとって重要な役割を果たしてきた地域であるが、近年は少し寂しい状態にあった。そこで、平安建都 1200 年の折、本市では梅小路公園を整備し、活性化を図っていかうとした。平成 24 年には水族館が、2 年後の平成 28 年には国内最大級・最高水準の鉄道博物館が公園にでき、その近隣では、京果会館が食をテーマにした賑わい施設へと今夏リノベーションされる。中央卸売市場においても、すし市場やあじわい館を整備し、民間と京都市の総合的な政策が実現して、活性化の芽が出てきたところである。そのような中、先立って京都商工会議所から JR 西日本と京都市に対して、新駅設置等の要望をいただいた。こうしたあらゆるチャンスが到来している今、民間・地域の力とともに、行政が徹底して政策を融合させて取り組めば、このエリアから京都が、そして関西が元気になっていくのではないかと感じている。

その他、商店街や島原の町並み、太夫・花街の文化、東西本願寺、大学等々、この地域の魅力を数え上げればきりが無いが、現時点ではバラバラで繋がりが無いと言っても過言ではなく、これらの魅力を最大限に融合し、新たな政策を推進していきたいと思う。例えば、中央卸売市場は、甲子

園球場の約4倍もの土地を有しているので、中央市場としての役割をしっかりと果たしながら、一方でもっと有効な生かし方を考えていかねばならない。また、京都のあらゆる原点と言える京都駅ともしっかり連携しながら、皆様の英知を集めて、このエリアから京都を、関西を、そして日本を元気にしていく、そんな構想の策定をお願いしたいと思う。

3. 委員紹介

－省略－（欠席：川原委員・新山委員）

4. 委員長の選出

－省略－（土井委員が委員長に就任）

5. 京都市長から諮問

【諮問内容（抜粋）】

下京区西部エリア活性化将来構想の策定に関する次の事項について、貴委員会の御意見を賜りたく、諮問いたします。

＜諮問事項＞

下京区西部エリアとその周辺地域も含めた京都駅西部エリアについて

- （１）京都市における当該エリアの果たすべき役割、将来像
- （２）当該エリア全体の活性化に資する方策
- （３）その他必要事項

6. 委員長あいさつ

◆土井委員長

僭越ながらこの委員会の委員長を務めさせていただくことになった。非常に重要な諮問書を頂戴したので、皆様の御協力を賜りながら、全力をあげて適切な内容の答申を描いていきたい。

先ほどこのエリアの重要性については、門川市長から非常にわかりやすく、かつ要領を得た説明をいただいた。私はまちづくりが専門なので、その視点から今回のプロジェクトについてお話ししたい。

なぜプロジェクトが重要なのかというと、それは将来に対する現在の問題点があるからである。こういう街にしたほうが良いということに対して現状とずれがある。そのずれをどうやって埋めていくかをまとめたのが、構想でありプランである。プランの実現の仕方は様々で、既存の制度がダメならそれを変えていく、また、お金がないなら、より多くの知恵を出すことが重要だ。そして、人々の力をどうやって集めるかが、プランの実現にとって大変重要な要素になる。

今はハード整備だけでなく、ソフト系の政策を大事にすることが多いが、ただソフトだけをやっていけばよいかというと、それは時代の要請と違う。時代にふさわしいハードをつくること、またそれをどうやって実現するかということを実際に考えなければならない。やりやすいことからやっていくのではなく、やりにくいことについても、どうすれば実現できるかと知恵をフルに動かすが、これからのまちづくりにふさわしいことであり、必要なことだと考えている。

まちを引っ張っていくプロジェクトをつくりださないと、まちは変わっていかない。また、人々が協力しようとする機運も高まらない。リーディングプロジェクトはそういう意味ではすごく大事で、ぜひこのエリアで明確な目標をつくりあげていきたい。

このエリアには京都駅があり、京都水族館を含めた梅小路公園があり、働く場所あるいは住む場所としても素晴らしい。それからたくさんの人がいて、修徳学区のような景観まちづくりの取組を実践されている素晴らしい学区もある。こういった多彩な力を結集して、方向性を明確に出しベクトルを揃えることによって、望ましい下京、それから京都駅西部エリアを、さらには京都市全体をつくりあげていくようなインパクトのあるような活動ができればと考えている。限られた時間ではあるが、皆様と力を合わせて、最後の答申まで全力を注ぎたいと思う。どうぞよろしくお願い申し上げます。

7. 議題

◆土井委員長

まず議題に入る前に、委員長職務代理者を指名させていただきたい。

当委員会規則第2条第4項で「委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。」ことになっているため、僭越ながら、私から指名させていただく。職務代理者は、まちづくりに御造詣の深い荒川朱美委員にお願いしたいと思う。

それでは本日の議題に移りたい。

1つ目の議題は「当該エリアの現状・課題、将来像についての意見交換」ということで、事務局から資料説明の後、委員の皆様から意見を頂戴したい。

【資料説明】－省略－

◆土井委員長

資料には「下京区西部エリア」と書かれているが、諮問書には「下京区西部エリアを中心とした京都駅西部エリア」とあるので、もう少し対象エリアを広げるような意見を出していただければありがたいと思う。資料5にもあるように、「住む」「働く」「遊ぶ・楽しむ」「学ぶ」という視点から、このエリアが今年度果たすべき役割、将来像について、委員の皆様から意見をいただきたい。

1回目なので、まずは自由に思っておられることをお話いただければと思う。御氏名の五十音順に御発言をいただきたいが、小西委員と池本委員が途中で退席されると聞いているので、最初に小西委員から御発言願いたい。

◆小西委員

大阪ガス株式会社の小西です。この4月に赴任したばかりだが、昔4年間京都に勤務していた経験があり、京都は16年ぶりである。私どもは下京区において、大阪ガス本体のガス事業、そして京都リサーチパークの運営で大変お世話になっている。

京都リサーチパークは、産学公が一体となった都市型のビジネスリサーチパークとしてスタートした。今では人材や情報、更にはビジネスの交流が非常に活性化しており、一定の目的を果たしていると認識している。今年25周年を迎え、10月に記念イベントを行う予定であるが、それ以外に

も毎年 8 月に KRP-WEEK というイベントを開催しており、多くのテナントの参加の下、様々なセミナーやシンポジウム、ビジネス展示会などを行っている。国内外から多くの技術者やビジネスマンの方にお越しいただき、活性化の一助になっていると思うので、これからも継続していきたい。

本論の将来構想についてだが、このエリアは梅小路公園や七条の商店街、京都水族館、京都市中央卸売市場、そして京都リサーチパーク等々、歴史的な視点、あるいは文化的な視点、食の視点、研究開発の視点と、色々な視点から見て非常に特徴的な施設の多いエリアだと思っている。そういう意味では高いポテンシャルを秘めていると思うが、現段階では、それぞれが各自の機能を果たしているというレベルに留まっている。今は点の活動だが、これを何とか線につなげていく、更にはその線を面に広げていく、そうした仕掛けが必要だという気がしている。京都市が「京都しもにし通めぐりウォーク」という、下京のまちを歩く催しを実施されているが、「歩くまち・京都」憲章を実践した非常に素晴らしい企画だと私は評価していて、こうした“歩いて回って楽しいエリア”“回遊性のあるエリア”という方向にもっていくのがベターだと感じている。京都駅から毎日京都リサーチパークまで色々なルートを歩いているが、それぞれ季節、エリアによって顔が違っていて、非常に楽しい雰囲気である。また、京都市内ではそれなりに知られているが、京都市外や他府県にはまだまだこのエリアの知名度は低いので、情報発信にしっかり取り組む必要があると思う。

先ほど土井委員長がおっしゃったように、ハードの整備も並行して取り組むことが大事である。京都リサーチパークもまだまだ開発の余地があるし、また、市長がおっしゃっていた新駅、これも大きなファクターであるように思う。

◆土井委員長

バラバラになっているものをつなげていくための仕掛けに何が必要かということで、今はまちを歩いていく、それから情報発信が大事だというお話をいただいた。

では、次は池本委員に発言をお願いしたい。

◆池本委員

京都市中央卸売市場は昭和 2 年にできた全国で初めての中央市場であり、今年 87 年目を迎える。そんな中この度、市場設備の改修と建替えという大きな事業を進めていくこととなり、水産棟は平成 32 年、青果棟は平成 38 年に整備が完了する予定である。先ほどお話があった新駅についてだが、新駅ができるかどうかで市場の整備のあり方も大きく変わるため、早く決めていただきたい。

七条千本繁栄会について、昔は市電が止まってしまうほどたくさんの買い物客が訪れたというが、今はもう人が来ないので、この商店街の活性化をどうするかが非常に大事であると思う。

中央市場の中に賑わい施設をつくるというような話がある。恐らく多くの方は築地の場外市場のようなものをイメージしておられると思うのだが、まず大事なことは、中央市場の場内業者が「これで大丈夫」と思えるくらいに十分な機能強化がなされることであり、その上で更に余分があれば、賑わい施設を整備するという順序になるだろう。いわゆる種地が何もない中で、少々難しい気もするが、皆で知恵を絞って取り組んでいかななくてはならないと思う。

まだまだ話はあるが、時間も限られているので、これで終わらせていただく。

◆土井委員長

もし、まだ話し足りないということがあれば、ぜひ事務局にお伝えいただき、次回委員会で皆様に見ていただけるよう、事務局でまとめていただきたい。

では、続いて東委員にお願いしたい。

◆東委員

京都駅ビル開発株式会社の東です。私は元々京都の人間で、国鉄にいて長く京都を離れていたが、地元へ帰ってきた。ここで骨を埋めるつもりで、京都で生きていきたいと思っている。

京都駅ビルは、現在、かなり活性化していると評価いただいているが、建設当時は皆様に色々と御意見を頂戴した。17年の月日が経つなかで、京都創造者大賞のもてなし部門で賞をいただき、ようやく少し認めていただけるようになったのではないかとと思っている。私どもはエリアの東端にある会社なのだが、そこから西側に向けていかに活性化していくかという点について、関心をもって取り組んでいく必要があると思っている。それともう1点、ここに住んでいる企業市民としての役割という意味で言うと、企業とその地元とがどう共存していくべきかを考える責任もあるだろう。

一昨年、京都駅ビルが15周年を迎えた際に、「下京・京都駅前夏祭り」というイベントを行った。とてもたくさんの方に興味を持っていただき、地元の皆様からぜひ取組を継続してほしいという話をいただいたため、昨年は、西本願寺と東本願寺、そして私ども京都駅ビルの3つの拠点をつなぐ「サマーフェスタ」として、下京区役所と一緒に引き続きイベントを開催した。今年も8月2日に開催する予定であり、七条商店街にも声をかけ、一緒に盛り上げたいと思っている。

梅小路の新駅設置について5月に京都商工会議所からJR西日本と京都市に要望が出されたところであるが、それにどう答えていくのかを今勉強しているところだと思う。決してマイナスに捉えてはいないが、条件的には色々難しいだろう。

◆土井委員長

では、続いて荒川委員にお願いしたい。

◆荒川委員

京都造形芸術大学の荒川です。建築や町並みの景観づくりを中心に研究しており、梅小路公園における京都水族館整備の検討やカフェの選定に関わっていたことから、少なからずこのエリアには縁があると思っている。また、私自身、下京の修徳学区に住んでおり、築100年以上の町家を改装した「職住一体の住まい」を実践し始めてまもなく10年になろうかというところである。

よく学生を連れてまちなかを歩くことがあり、先日も角屋もてなしの文化美術館と梅小路公園にお邪魔した。私どもの大学は比較的京都の学生が少なく、全国から集まっている。角屋に行くとやはり本物の京都の文化、空間に触れられるということで、少し値段は高いが相応の値打ちがあり、皆堪能して帰っていく。それゆえ、若い人にも十分に伝わる資産、魅力があると感じている。

そのような中で、ソフト・ハードの取組を考えてみると、ソフトの方が、多彩なジャンルから、皆でまちを活性化しようという提案があるかと思う。先日、三条通商店街の理事長が「大きいイベントを1本打つのではなく、細かいイベントを定期的に重ねていくことで、人がコンスタントに来るようになる」と話されていた。下京は京都のダウンタウンだと思うのだが、その中の西部という

ことで、「ウェストサイドストーリー」といった感じで、何か物語をつくりアピールするという方法も良いのではないかと考えている。平安京に新撰組、鉄道、イノベーションと、このエリアのキーワードは色々あるが、よく言えば多種多様、百花繚乱、悪く言えば非常に雑多ということで、イメージが一本に絞り込みにくいというところが、捉えどころのないことの原因になっている。

ハードに関しては、公共の交通網をどうするかを考えなくてはならない。新たな鉄道駅をつくるのは大変なことなので、もう少し簡単な、例えばミニバスや新型・次世代型の市電のようなものをループさせるような取組も含めて考えても良いだろう。また、歩く人の回遊性を担保するために、街角の整備、例えば「ポケットパーク」をつくって、お年寄りでも小さな子供でも車椅子の方でも、誰もが立ち止まりながらゆっくり点を結んで歩けるような散歩道の整備も大切だと思う。

◆土井委員長

今のお話には、非常に重要なヒントがあると感じた。

では、続いて市村委員にお願いしたい。

◆市村委員

梅小路活性化委員会の市村です。下京区西部エリアの6つの商店街で「ほいっと七条」というグループをつくっており、その中から更に、京都水族館建設をきっかけとして「梅小路活性化委員会」を立ち上げた。私は、その梅小路活性化委員会の委員長を務めさせていただいている。

私は嶋原商店街振興組合の理事長と京都商店連盟の副会長に就いている関係から、商店、商売人関係の代理者であろうと自認している。京都水族館開業の折に、付近にある島原の文化財が梅小路の活性化と共にクローズアップされたことについて、大変喜んでいる。

新駅設置については、梅小路公園での大規模イベントに合わせて仮設駅をつくるという話ならまだしも、常設の駅をつくるのは採算がとれるかどうか疑問を感じている。小さな市町村に駅をつくらうとすれば地元に多大な負担金がかかることが多いが、このエリアの場合はどうか。おそらく京都市は一銭も負担金を出すつもりはないだろう。京都商工会議所の方には、もう少し我々地元のまちづくり関連団体と相談してから、提案をしてほしかった。新駅設置について、私が気付いていないメリットがもしあれば教えていただきたい。私は今のところ、京都駅、梅小路公園、丹波口駅をこまめに周遊するシャトルバスを走らせたほうが、交通アクセス上のメリットがあると考えている。

東の岡崎、西の梅小路と、京都には2つの大きな公園があるが、岡崎より梅小路のほうがより生活に密着した公園だと思う。特に周辺に中央卸売市場や商店街があるため生活色が豊かであり、梅小路の活性化にあたっては、「住民が生活しやすい地域」という視点を大切にすべきだと思う。

◆土井委員長

新駅についてはやはりきちんと議論していかななくてはならない。建都1200年のイベントの際、梅小路公園に臨時の駅が設置されていたことを、市村委員のお話を伺って思い出した。

続いて、内田委員にお願いしたい。

◆内田委員

内田です。京都市中央卸売市場で、池本委員は水産、私は青果の卸を取り扱っている。中央卸売

市場は五条から七条の間にあり、七条側が水産、五条側が青果となっている。平成 24 年には、五条新千本のユニクロの南の土地に、7 階建てのビルを建設した。その 3 階部分を京都市・京都府に貸して「京の食文化ミュージアム・あじわい館」を整備いただき、そこから京の食文化を積極的に発信していこうと、協力して取り組んでいる。

直近の話では、門川市長や周りの方々からの様々な要望があり、七条千本あたりに所有する「京果会館」のリノベーションを行った。今年 3 月末に本体工事が完了し、7 月 20 日にグランドオープンの予定であるが、1 階はレストラン、2 階は店舗、3 階はイベントホールと事務所、4・5 階は住居として整備している。3 階のイベントホールでは各種の食に関するイベントが開催できるように、また 4・5 階の住居ではキッチンを大きめにとることでフードコーディネーター等に事務所兼住居として使っていただけるようにと、ビル全体が「食」をテーマにした施設に生まれ変わる。更に、2 階の奥にはパウダールームも備えており、観光の役にも立てればと考えている。

資料に、活性化の視点として「住む（居住）」「働く（商業）」「遊ぶ・楽しむ（観光）」「学ぶ（学習）」が書いてあるが、「食」はこの 4 つの視点すべてに関係してくるものである。しかも「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録された今、「食」への注目は非常に高まっており、京果会館を中心に人の集まりができればと、定期的にイベントホールを使った催しを行うことなども考えている。一方で、課題となっているのは、週末は賑やかでも平日の人通りがあまりなく、店舗を構えるのに非常に不利だという話が出ていることである。それゆえ、平日にどれだけの人の流れをつくっていくかということが、活性化の 1 つのポイントになるのではないかと考えている。

◆土井委員長

では、続いて大島委員にお願いしたい。

◆大島委員

大島です。私は「スーク創生事務所」という屋号を名乗っているが、「スーク」とはアラビア語で「市場」を意味している。市場は古い歴史を持つまちにおいては必ず中心部にあるものであり、かつそこは人が交流するイノベーションの舞台でもある。少しでも京都の「スーク」をつくっていくことができればという思いを込めて、この名前をつけた。活動は京都だけに絞っており、商店街の活性化や、住まい・まちづくりに関するいくつかの NPO を運営しているほか、最近では団地再生やリノベーション等にも関心を持って動いている。また、左京区岡崎のエリアマネジメント組織「京都岡崎魅力づくり推進協議会」のプロジェクト担当マネジャーも拝命している。

今回の資料を見ると、下京区西部エリアの活性化について、「文化」という文字が無い。敢えて意識して書いていないのかもしれないが、これを問題提起として、「このエリアの文化とは何なのか」、つまり「このエリアに蓄積されてきて、具現化しているものとは何なのか」ということを考えていくプロセスなのかなと感じた。非常にたくさんの要素が集積している地域であるので、その中からエッセンスを抽出していく作業が大事だと思う。

また、「住む（居住）」「働く（商業）」「遊ぶ・楽しむ（観光）」「学ぶ（学習）」という 4 つの活性化の視点については、各自がバラバラに機能するのではなく、その結節点となるような新たな視点、例えば「交流」「交わる」であるとか、内田委員の御意見にもあった「味わう」といったエッセンスを考えていくことが大事である。私は最近、このエリア、とりわけ京果会館に足しげく通ってい

るのだが、京果会館は、この4つの機能をまさに「味わう」ということで結節しビルの再生を図っていると言える。今回、エリア全体を結節する仕組みを考えていくためにはかなり強力なエンジンが必要で、そのエンジンをどうするかをということが、1つ大きな議論のポイントになると思う。

◆土井委員長

日常的な「食」や非日常的な「交流」を一緒に、同じ空間の上で議論できるととても良いのではと思った。交通アクセスをどうしていくかということが、強力なエンジンの1つになりうるかもしれない。またそのあたりも皆様と一緒に議論したいと思う。

では、続いて大濱委員にお願いしたい。

◆大濱委員

初めまして、市民公募委員として参加させていただく大濱育恵です。株式会社健幸プラスという配食サービス等を手掛ける会社を経営しており、また去年は、子育て支援団体の代表も務めていた。資料中のマップに「人口が増加」とコメントの付されたエリアがあるが、そこにあるマンションに、6年前神奈川から引っ越してきた。京の玄関口である京都駅が近くにあり、新幹線での里帰りに便利な環境であることから、私と同様、他府県出身のママさんが近所には多いように感じる。

昨年1年間子育て支援団体の代表をさせていただいた背景には、子育てするうえで、下京区のどこに行ってもいいのかが分からなかったということがある。中京区などでは親子で入れるカフェ、あるいは「ウィングス京都」、「こどもみらい館」といった施設の名前がすぐ浮かぶのだが、下京区ではそれがわからなかった。そこで、昨年7月に「下京区『区民が主役のまちづくり』サポート事業補助金」の交付を得、梅小路公園・緑の館で、子育て中のママがカフェに訪れるような気軽な気分で集い、交流できるイベント「ママタイムカフェ」を定期的に開催した。また、これを機に、京都リサーチパーク内にある「ディリパ京都」（大阪ガスショールーム）でも、昨年度の12月、3月、そしてこの5月からは毎月1回、「ママタイムカフェ」を開催することになった。

今回、自分なりに下京区西部エリアはどんなまちであるかを考えてみると、地元の方は「京都のメインは四条だ」と言われることが多いが、もともと府外の人間である私にとっては、玄関口である京都駅こそがメインだと感じる。そして、私が住んでいる「人口増加」エリアなどは、他府県出身から移り住んだ方が混在しており、都会的な一面を持つ一方、少し道を外れれば住居空間が広がっていて、平日と休日の人の流れが大きく違う印象を受ける。それゆえ、平日は平日の、休日は休日の活性化施策の打ち出しが必要ではないかと考えている。

国内最大規模の鉄道博物館が梅小路にできるということなので、この機にエリアのブランディングが必要であると思う。「鉄道」をテーマにしたまちづくりによって、子育て世代がより入りやすい環境が整うと考えられるし、鉄道ファンは全国にいたので、観光の目玉にもなる。小さい子供を連れて京都駅～梅小路公園間を歩くのはなかなか大変なので、例えば、チンチン電車のような小規模な電車路線でよいので、京都駅から梅小路公園までを「梅小路線」といった形で結ぶことができれば、かなり変わるのではないかと。また、歩くまちという観点から、ちょっとユーモアをもって、鉄道博物館までの道のりに線路の模様を付けたりしても面白いと思う。

◆土井委員長

他府県から移り住んだ方が人口増加エリアには多いのではないかと、新しい発見があった。では、続いて杉本委員にお願いしたい。

◆杉本委員

杉本節子です。私は京町家・杉本家住宅（国重要文化財）を維持、継承する公益財団法人で仕事をすると同時に、京町家の食文化、京料理の継承を目的として、料理研究家という肩書でも活動している。私としては、京都市民一人ひとりがこのエリアの活性化の動きをどのように感じるかということについて、非常に関心がある。

杉本家住宅は、同じ下京区の中でも「下京区西部エリア」からは少し北西の方に外れた場所、祇園祭の山鉦の出る地域に位置する。京都はやはり四条通が目抜き通りであり、南北は烏丸通、河原町通に囲まれたエリアが、京都の中心部である。そして、烏丸から西へ南北の通りが進めば進むほど、ビジネス街から離れ、ちょっと寂しい感じになる。実際、杉本家住宅のほど近くにある西洞院通を境に、その西側の南北の通り2つに渡って5つの山鉦があるが、規模の小さな「昇山（かきやま）」というタイプの山鉦であり、人口も少なく、こじんまりとした雰囲気のある町が並んでいる。

今回の活性化の検討対象エリアは、その更に西を含んでおり、京都の中心部（四条烏丸界隈）から離れた、見落とされがちなエリアであるように思っていた。しかし、先ほどの御意見にもあったように、新しい住民の方が増えているスポットがあるなど、これから大きく発展的に考えていく要素が秘められている場所なのだと、非常に強く感じた次第である。

私も実際のところ、五条烏丸から西側のエリアになかなか来る機会がなかったが、料理研究家として、「ディリパ京都」（大阪ガスショールーム）、あるいは昨年4月に本オープンした「あじわい館」で料理講習などをすることを通して、初めて私のなかで西側のエリアへの動線ができてきた。しかし、いかんせん京都の中心部（四条烏丸界隈）からのアクセスが悪く、五条通という大きな幹線道路が通ってはいないものの、行きにくい場所であると感じている。また、烏丸から西側に向かうと京都の下町、ダウントownのような、やや寂しい感じがある。その寂しい感じというのが、実はレトロな昔ながらの町の雰囲気を残しているということに逆説的に言えるのではないかなと思う。

先ほど大島委員から「文化」という文字が資料中になかったという話があったが、私も資料を見たときに、何によってこのエリアの様々な要素が結ばれていくことになるのだろうと疑問を感じたし、やはりそこに必要なのは「文化」であろうと思う。京町家を守る仕事をしている立場から言うと、このエリアに行くまでの界隈、あるいはエリア内にもまだ、道幅も間口の大きさも昔ながらという、いわば「昔の京都サイズ」というべきものが残っている。町家だけが京都の文化を表すものではないと思うが、そうした町家という建造物の基本的なスケールなども大切にしながら、京都に昔からある暮らしの文化というものをピックアップして構想に反映していくべきだと感じた。地元の文化・暮らしというものがどのように息づき、どのように都市計画されてそこに表されているかということ、ここで構想に対する外部の評価は分かれるように思う。

私は町家というハードとともに、そこに息づく人の営み、文化といったソフトも保存・継承する活動に取り組んでいるが、ソフトはハードが残ってないとなかなか残っていかないし育まれていかないということを自ら経験している。ソフト部分も重要視しながら、このエリアのまちづくりの計画が京都市民にとって納得のいく、目に見えて京都らしいものになってほしいと考えている。

◆土井委員長

「文化」の視点、また、都心部からのアクセスが大事だというお話をいただいた。その視点は欠かせないと思う。

では、続いて西村委員にお願いしたい。

◆西村委員

七条学区の自治連合会長を務めている西村です。

七条学区は、東西は新千本通から西大路通、南北は七条通から東海道線に至るまでの広い範囲の学区で、最近人口が増加している。地域住民の皆様が本当にここに住みたいと思う地域をつくるのが我々の一番大事な仕事であり、各団体が様々な自治活動を行って、地域の皆様方が積極的にその活動に参加することで、人と人との触れ合いから生まれる助け合い・支え合いの気持ち、そして信頼感が大きく膨らんでいく。そういうことの積み重ねが、このまちの良さというか、「ここに住みたい」という気持ちになっていただくために大切なことではないかと思っている。

七条学区の世帯数は現在約 3,500 世帯ほどであるが、これは自治活動に参加されていない賃貸マンションの方などの数は入っていないため、実際は相当の人数になるのではないかと。小学校では、教室が足りないと悲鳴があがっているのが現状で、住民が増えていることについては、ありがたいことだと感じている。また、新千本通をまたいですぐの場所に梅小路公園があるので、お年寄りも子どもも、毎日のように梅小路公園へ行っている。住環境の点からいえば、七条学区は恵まれたエリアであると思う。

そこでやはり一番気になるのは、七条通に面する商店街である。先ほど池本委員もおっしゃったように、かつては市電が止まってしまうぐらい多くの人通りがあった。どこの商店街も大型の商業施設に客をとられて苦戦しているという話は聞くが、七条通の商店街をこのまま放っておいたら、本当につぶれてしまう気がする。七条学区も人口は多いが、七条通の北向かいには七条第三学区というこれまた大きな学区がある。これだけたくさんの住民がいながら、なぜこの商店街を利用していただけないか、我々自治連合会も商店街と一緒に考えていかねばならない。近々に、女性会やPTAの奥様方を巻き込んで、地元商店街とこれからの活性化の対策について一度話し合いをしようと計画しているところである。

何とか、地域力で少しでも商店街が元気になってほしい。やはり商店街が元気になると地域全体が活気づく。「昭和レトロを味わう空間」といった商店街の謳い文句があるが、今はお勤めをされている奥様方が多く、そういう方々の生活時間帯と商店街の営業時間との間にズレが生じている。そういった課題について皆様と知恵を絞って考え、良い方向へ持っていきたいと思っている。

また、先ほど京果会館の話題が出たが、梅小路公園の来訪者の間で特に希望の多かった「グルメ」「ショッピング」が楽しめる商業施設に生まれ変わるということで、大いに期待をしている。

◆土井委員長

七条学区で人口が増加しているというのは、とても素晴らしいことである。どういう人が増加しているかといった詳細をまた事務局に教えていただきたい。例えば単身・所帯持ちの別、あるいはどこから来られたかなど、とても大事な情報になると思う。

◆西村委員

また詳細を報告しておく。

◆土井委員長

それから商店街と自治連合会とで会合を持たれるということで、「なぜ商店街で買い物をしないのか」「買い物してもらうためにはどうすれば良いか」といった議論の結果も、できれば事務局にお伝えいただきたい。

最後に、本政委員にお願いしたい。

◆本政委員

梅小路公園や蒸気機関車館など、今ある梅小路公園の施設のすべてが入っている大内学区の自治連合会会長の本政です。

当該エリアの現状認識について、まず述べたい。京都水族館ができて以降、七条通の大宮～千本間の土・日・祝日の人口増は目を見張るものがある。課題も色々であろうかと思うが、京都水族館の開業、そして今年3月のすざくゆめ広場の開園によって、なお一層来訪者が増えたことは事実である。あとは、この人たちをどのようにして地元を引きつけ、いかにお金を使ってもらおうかということが、地域開発の一番大事なポイントだと思う。

その観点から常々思うのは、平成28年の京都鉄道博物館の開業、やはりこれをもって、下京区西部エリアの将来像というのが見極められるのではないかとということである。先ほどから、商店街の疲弊等について色々意見が出ているが、私は、商店街の店主のなかには、鉄道博物館ができることによってどんな対応が必要となってくるかということを見極めておられる部分もあるのではないかと考えている。資本を投下するにあたってある程度の見極めをつけないと具合が悪いと、今は時機を窺っている方も一定おられることだろう。鉄道博物館が整備され、また蒸気機関車館も耐震補強のうえ、新しい建物を建てられると聞いているので、そういうことを含めて、もう一度人の動きというものを考えてみる必要があるのではないかと。

◆土井委員長

大内学区のなかに集客施設の立地が進んでいるという現状を踏まえて、お話しいただいた。

私も一委員として少し発言させていただきたい。

皆様のお話を聞きながら、このエリアについて考えなくてはならないポイントがよくわかってきた。まず一つは、「住むエリア」として非常に恵まれた場所であるということである。京都駅がすぐそばにあることから、京都の人だけでなく、大阪に通勤する人たちにとっても便利で、京都駅を通じて全国につながるという意味で住むのに魅力ある地域といえる。また、エリア内には、梅小路公園のような素晴らしい公園があり、日常的に訪れることができる。そのうえ、京都のまちなかに比べると相対的に地価は安いとなると、居住のエリアとしてはとても良いので、先ほど西村委員がおっしゃったように人口も増えてくる。このように、人が集まって住みやすいというのがこのエリアの持つ重要なポテンシャルで、その住みやすさをいかに伸ばしていくかがポイントになるだろう。

もう一つは、「働く場所」というのがやはり大事だということである。働く場所がなければ人は集まらないし、住んでももらえない。このエリアには京都リサーチパークや中央卸売市場、その他に

も様々な働く場所があるが、そこで働く人たちが産業クラスターのようなものを形成しているかもしれないし、新しく起業する方がいるかもしれない。そういう新しい業を起す芽、例えば食文化、あるいはリサーチパークを起点として、ICT や新しい情報通信技術、それを活用した印刷技術、新しいコンテンツをつくるビジネス等々をこのエリアで展開する人が増えてくると、日常生活も便利に、そして職住近接も可能な地域となる。ここで日常生活を送る人にとっては価値のある場所になっていくのではないかと思う。

一方、非日常的に観光でこのエリアを訪れる方がいる。比較的近い地域から来られる方々と、広域的に全国から来られる方々と2種類あると思うが、それぞれができる限り満足してもらえるようなエリアにしていくためには、どんなことが必要だろうか。全国から集まる人向けには、やはり、京都駅から梅小路公園、中央卸売市場、あるいは東西本願寺のようなスポットをうまく回っていただけるような回遊の仕組みをつくっていくこと。また、ゆっくり歩けるような環境の整備と併せて、バスなど公共交通の適切なネットワーク、あるいは新駅設置等々の人を運ぶ手段についても考える必要がある。同時に、京都の人がこのエリアに来るためにはという視点として、京都駅だけでなく、京都市の都心部である四条河原町や四条烏丸、市役所からの交通をうまくつなぐことで共存共栄を図ることも必要になるだろう。こうした交通アクセスを一層向上させることをうまくこのエリアで工夫していきたいと思う。

それともう一つ、資料6「京都市の小売業の状況」を見ていただくと、このエリアが京都においてどのような役割を果たさなくてはならないか、また違う角度からイメージできるかと思う。資料によると、平成19年から平成24年のたった5年の間に京都市全域の小売業年間販売額は18%も減少している。京都駅周辺は健闘しているものの、都心部地域（四条通、河原町通、御池通、烏丸通に囲まれた地域とその周辺地域）は32%も販売額が減っており、これが京都全体の減少額の36%近くを占めて、大きな影響を与えている。

ここから京都駅周辺の果たすべき役割を考えると、一つには、もちろん、京都駅周辺で商業活動を頑張って売り上げを伸ばしていくということがある。それだけでなく、なぜこうした大幅な小売業販売額の減少が生じたかを考えると、グランフロント大阪をはじめとする広域集客施設の開業等によって、これまで滋賀方面から京都の都心に買い物に来ていた人が、京都に寄らずに大阪に流れるようになったのではないかと想定される。その点から下京区西部を含む京都駅西部エリアに期待される役割としては、このエリアの魅力を向上することによって、京都に足を止めてもらい、都心と共存共栄を図るということが挙げられるのではないか。広域集客だけでなく、日常的に京都を利用する京都市内外の人たちの足を止めるといった中間的な位置づけで、このエリアだけでなく、京都全体でお客さんを増やしていくための役割が期待されていると考える。京都全体の地盤をあげていけば、当然、このエリアも共に上昇していく。こうしたプラスのスパイラル構造をいかにつくりあげていくかということが、これから目指すゴールになると思う。委員の皆様のお話一つ一つはとても重要で、その重要な事柄をうまく積み上げて京都全体をかさ上げし、そのために京都駅西部エリアで果たすべきことをきちんと実行していくという仕組みをつくるのが大事である。

もう一つ、エリア内の回遊に関連して、ある百貨店の話を思い出した。その百貨店曰く、百貨店であると同時に集客産業でもあるので、できる限り多くの人に来てもらい、できるだけ長く店内に滞留してもらうための工夫が必要となる。そこで、疲れた客が帰ってしまうのをできる限り遅らせるために、店内に数百もの休憩用イスを設置しているということである。物販面積を多少犠牲にし

てでも快適なイスを設置することで、客の滞在時間を増やすという戦略だが、これはまちづくりにおいても重要な観点で、このエリアでいわゆる「座り心地の良いイス」をどうやって用意するのかということをイメージする必要がある。このエリアを回遊性の高い地域としていくために、まちの中にどのようなものを準備すれば良いのかを、今後議論していきたい。

残された時間もわずかとなったが、ここで意見交換をしたい。「〇〇委員のお話をもっと聞きたい」「皆様の意見を聞いて触発され、こんな意見が浮かんだ」などあれば、この機にお話しいただきたい。

◆市村委員

新駅設置の話題について、委員の皆様はどのようにお考えであるのか伺いたい。

◆土井委員長

どなたでも結構なので、忌憚のない御意見をお聞かせいただきたい。

◆内田委員

京都水族館、そして京都鉄道博物館という集客力のある施設ができるので、その近くに駅をつくることは、京都駅からのアクセスを考えた時に、すごくプラスになるのではないかと考えている。地域にお住まいの方にどのような影響が出るのかわからず言い切れない部分もあるが、外部からお越しになる方にとってはメリットがあると思う。

◆市村委員

地方から来る人が京都駅を通過して直接新駅に向かってしまうことで、京都駅界隈の商店街が寂れてしまうというデメリットも考えられるのではないかと。

◆土井委員長

新駅の設置によって京都駅が通過され、京都駅界隈が寂れるのではという御指摘であった。京都～大阪間くらいの距離であれば商圈のとりあいになるだろうが、1駅という短い距離の間話であるので、一体的に捉えて、むしろ相乗効果を出すような方策を考えていくほうがよいだろう。

◆市村委員

現状、京都駅で降りられた方の中には、七条通へ出ることなく東海道線沿いの道を歩いて直接梅小路公園へ向かってしまう方が結構多い。我々商店街の人間としてはできるだけ七条通を歩いていただきたいと考えている。

◆土井委員長

歩きやすい道をつくっていくということが大事である。「近い方が良い」という声もあるだろうが、「多少遠くても楽しい所があるなら行こう」と多くの人が考えると思うので、いかに楽しいルートをつくりあげていくかということがポイントになるだろう。皆様、他にもたくさん御意見があると思うが、それについては事務局にお伝えいただくか、次回の委員会でお話しいただきたい。

今回は、交通アクセスの問題や住環境についての御意見をたくさんいただいたほか、集客の仕組みづくりや子育て、産業の話も大事であると確認した。「住む（居住）」「働く（商業）」「遊ぶ・楽しむ（観光）」「学ぶ（学習）」という4つの視点に加えて「交流」「文化」の視点、また、それらをまとめるものとして「味わう」という視点も考えられるのではないかと等々、このエリアにどのような価値をつくり出していくのかについて皆様からお話しいただいた。

それでは、2つ目の議題「今後のスケジュール」に移りたい。

今後について、私から1つ提案させていただきたい。京都駅からの距離感や現場の雰囲気や委員の皆様と体験することで、議論をより深いものにできればという思いから、第2回委員会の前に、現地視察を行いたいと考えている。皆様お忙しいとは思いますが、ぜひ日程の調整をお願いしたい。

それでは、詳細について、事務局から説明願いたい。

【資料説明】－省略－

◆土井委員長

ただ今説明いただいた内容について、質問等がありますか。

それでは、このスケジュールに則って策定作業を進めていきたいと思う。10月に中間まとめを公表するということだが、公表の前には、その内容について委員の皆様にしかりとお伝えいただきたい。

本日の議題については、以上である。事務局から何か連絡事項があれば、お話しいただきたい。

◆事務局

たくさんの貴重な御意見をありがとうございました。先ほど土井委員長から御指示があったが、エリアの人口増加の分析等の資料は、次回委員会で御用意させていただく。それ以外にも、こんな資料が欲しいという御要望があれば、事務局まで御連絡いただきたい。併せて、第2回委員会の進め方については、委員長と相談の上、事前に各委員の皆様方にお知らせさせていただく。

8. 閉会

◆土井委員長

それでは、今回はこれで閉会とさせていただく。次回、できれば現地視察にも御参加いただき、その感想を交えながら議論を続けてまいりたい。本日はどうもありがとうございました。

以上

京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会 出席者一覧

	氏 名	役 職 等
委員長	ど い つとむ 土井 勉	京都大学大学院工学研究科 特定教授
	あずま のりあき 東 憲昭	京都商工会議所 地域開発・都市整備委員会 副委員長 (京都駅ビル開発株式会社 代表取締役社長)
	あらかわ あけ み 荒川 朱美	京都造形芸術大学環境デザイン学科 教授
	いけもと しゅうぞう 池本 周 三	京都市中央卸売市場協会 会長 (京都全魚類卸協同組合 理事長)
	いちむら まさる 市村 勝	梅小路活性化委員会 委員長
	うちだ たかし 内田 隆	京都市中央卸売市場協会 副会長 (京都青果合同株式会社 代表取締役社長)
	おおしま さちこ 大島 祥子	一級建築士事務所 スーク創生事務所 代表
	おおはま いく え 大濱 育恵	市民公募委員
	こにし まさゆき 小西 雅之	大阪ガス株式会社 常務執行役員 京滋地区総支配人
	すぎもと せつこ 杉本 節子	公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会 常務理事 料理研究家
	にしむら ためひこ 西村 為彦	七条学区自治連合会 会長
	ほんまさ かずよし 本政 和好	大内学区自治連合会 会長

《五十音順（委員長除く）、敬称略》